

意欲的に「考える」自ずと「関心を持つ」財政教育を目指して

財政教育プログラムが、日本の財政について意欲的に考え、自ずと関心を持つ機会となるよう、授業内容を学校(小・中・高校)の協力のもとカスタマイズ。

概要

授業効果を最大に発現するためには、生徒自身が意欲的に考え、自ずと関心をもってもらうことが大切であり、そのためには学校(生徒)に合った教材、授業内容、形態とすることが必要不可欠と認識

29年度の取組

約3ヶ月前から学校の雰囲気、授業の進捗等をヒアリングし、担当教諭と検討のうえ、最適な授業が提供できるよう随時プログラムをカスタマイズすることとした

学校の要望と具体的事例

- ✓ プログラムの効果をより高めたい
⇒事前授業のなかで個人で予算案を作成し、考えが近い生徒同士でグループを編成し、プログラムを実施
- ✓ 財政を多面的な視点から考えたい
⇒地域の各世代を招聘し、予算案作成のためにヒアリング
⇒当局が講義を行う大学生がファシリテーターとして参画
- ✓ 更に財政の課題を掘り下げた授業を実施いただきたい
⇒世代別・役割別グループで議論するブラッシュアップ授業(ロールプレイング形式)を追加実施



取組の成果と今後の展開

取組の成果(学校からいただいた声)

「生徒がワクワクするような講義・教材だった」

⇒タブレットを使ったクイズを出したり、数兆円という金額を地元の施設・シンボルにかかった費用に例えることで、生徒が発言、参加する講義とすることができた



「生徒が深く考えていた。大人が考えても十分な内容」

- ✓ 地域の各世代からヒアリングした授業の効果
⇒その世代のリアルな問題、政策に期待する声を生徒が把握できた
- ✓ ブラッシュアップ授業の効果
⇒生徒が大臣等の役割を担うことで、その立場の考え、財政の問題を実感できた

今後の展開

基本的な財政教育プログラムを実施しつつ、学校の声プログラムを進化に反映させ、生徒が財政に、より「意欲的に」「関心を持つ」授業の提供を目指していく